

5. 各種講座受講配当数（小・中学校）

| 出張所名 | 小学校 へき地指導者 講 | 小学校 教材製作修理 座 | 中学校 教材製作修理 座 | 中学校 指導者養成 座 |
|-------|--------------------|--------------------|--------------------|-------------------|
| | 信 夫 | 2 | 4 | 4 |
| 伊 達 | 1 | 4 | 4 | 5 |
| 安 達 | 1 | 4 | 4 | 7 |
| 郡 山 | 1 | 4 | 4 | 9 |
| 岩 瀬 | 3 | 4 | 4 | 5 |
| 白 河 | 1 | 4 | 4 | 6 |
| 東 川 | 6 | 4 | 4 | 6 |
| 石 川 | 3 | 4 | 4 | 6 |
| 田 村 | 1 | 4 | 4 | 8 |
| 南 津 | 14 | 4 | 4 | 6 |
| 北 会 | 7 | 4 | 4 | 8 |
| 耶 麻 | 18 | 4 | 4 | 8 |
| 両 沼 | 17 | 4 | 4 | 7 |
| 石 城 | 7 | 4 | 4 | 16 |
| 双 葉 | 12 | 4 | 4 | 6 |
| 相 馬 | 6 | 4 | 4 | 7 |
| 計 | 100 | 64 | 64 | 120 |
| 小学校別計 | 小 学 校 164 | | 中 学 校 184 | |
| 合 計 | 3 4 8 | | | |

第3節 調査・研究

1 事故事例調査

(1) 目的

理科学習指導に関連した事故は相当多いが、現在までの調査では、その事例の多くは集められていない。事故防止対策を研究する第一段階では、なるべく多くの事故事例をみつめて事故の実態をはあくすることが必要である。このため全国理科教育センターでそれぞれ実態調査をおこない、これをまとめて全国的規模で実態をはあくし、事故防止のあしかりとする。

調査結果の概要

本県における事故発生状況はつぎのようである。

| 学校種別 | 調 査 依 頼 校 | 報 告 校 数 | | 事故件数 (人数) |
|-------|--------------|---------|------|--------------|
| | | 事故なし | 事故あり | |
| 小 学 校 | 577 | 518 | 57 | 80(80) |
| 中 学 校 | 323 | 253 | 67 | 94(84) |
| 高等学校 | 110 | 79 | 16 | 19(16) |

小学校では、アルコールランプの取扱い、野外観察における負傷などが多く、中学校ではアルコールランプの取扱い、強酸・強アルカリ薬品の取扱いによる薬傷、高等学校では、硫酸の取扱いによる薬傷火傷が多い。傷害程度はほとんど軽傷であるが延べ180人中重症3名、中症24名いる。

これらの事故は35年～40年の5年間のものであるが、事故防止のため事例を分析しその対策を検討していく。なお全国の事例をまとめた事例集は2月発行されており、41年度に共同研究として事例を分析して事故防止対策をたて報告書として発行する予定である。

4. 研 究

理科学習指導上の問題点について、つぎのような主題で研究をおこない、紀要を発行して指導の資料として活用されるようにした。

- 学力の実態よりみた小・中・高校の化学教材について
- 小学校理科実験法（物理的内容）の一考察
- 継続観察「季節だより」の取扱いについて
- 青写真感光液の感光性について
- 地学の簡易実験について
- 塩酸一水酸化ナトリウムの中和反応の考察
- 機能的な配色と塗料の選択・塗装の方法について
- 光の波長測定法についての考察
- 高校生物実験に関する一考察